

【山崎名誉主宰の俳句】

いつとなく

山崎 聰

でもやはりそうは云っても春の霜
もう一度素顔にもどり春の闇
流雛いくばくさくら咲くくから散り
砂山はとうに崩れて花の雨
紫荊むこうの丘に風吹いて
少年にいちにち長く散るさくら
立ち上がるものにたましい春の夜
寝るときも水の流るる甲斐の春
いつとなく冬から春へ海や山や
入学すまんまる太陽昇るように